

-手のひらサイズから大物板金まで-精密板金の技能者集団！

# 日本ゲージ株式会社



本社工場



取締役工場長  
山野内 十一郎 氏

## 会社概要

- 設立 昭和8年4月 ●資本金 4,000万円 ●従業員 85名 ●所在地 東茨城郡茨城町長岡3652
- 電話 029-292-2511 ●FAX 029-292-2502 ●HPアドレス <http://www.nihongauge.co.jp/>
- 事業内容 エレベータ部品、プリンター部品、機構部品等の精密板金加工（筐体ケース・外装カバー）、SUS看板製作

今回のきらり企業は、精密板金の日本ゲージ株式会社を訪問し、取締役工場長の山野内 十一郎 氏にお話を伺うとともに、工場内を案内していただいた。

## 沿革

当社は、東京都蒲田区（現大田区）において、昭和8年に創業され73年の歴史がある。

創業者である先代の山野内 四郎 氏は、創業前に我が国最初の工業計測機器製造会社である北辰電機製作所に勤務されていた。当時欧米からの輸入計測器が標準として尊重されていたなか、計測器の国産化に成功し、その後の我が国の産業発展に大きな貢献をした会社である。

当社は、創業時には北辰電機製作所に計測機器部品を納めていたが、戦争勃発とともに工場を水戸市元吉田に移転、日本ゲージ水戸工場を設立し、戦時中は航空機に搭載する計測機器を製造していた。現在は精密板金が主たる事業の当社であるが、「社名にあるゲージの由来は、

この当時計測機器を製造していたため。」とのことである。



エレベータ部品製造工場

## 工場移転

当社は、戦後(株)日立製作所国分工場の協力工場として、変圧器の部品やエレベータ出入口部品の製造を始めたが、日立製作所水戸工場の車両部門等と国分工場のエレベータ部門が統合され新水戸工場がスタートした後、現在も続くエレベータ出入口関係の完成部品の製造も開始した。

当時は、木造建築で工場もかなり老朽化してきたことと、作業の効率化を図るために、現在地に新工場を建設し水戸市内から移転した。

## 精密板金事業へ進出

我が国の高度経済成長期に終止符を打った昭和48年のオイルショックによる不況は、我が国の産業に大打撃を与えたが、当社も苦しい時期を迎えることとなった。2年近く仕事がなく従業員を80名から35名に削減することを余儀なくされ、この時「ベテラン職人も会社を去った。」という。

この不況を乗り切った当社は、ラインプリンタに使用される薄板板金作業を開始し、多額の投資により板金設備を導入、精密板金事業に進出した。



全自動タレットパンチプレス機

## 見込生産から受注生産へ

当社は、板金加工の中でもとりわけ大物と言われる産業機器分野において、高い提案力及び技術力で顧客から高い評価を受けているが、発注量が時期的に大きく増減するため、材料や製品の在庫を抱えることになり、効率的な事業運営ができにくいという面もあった。今後、「見込生産方式から特急生産にも対応する多品種少量生産の受注生産方式に移行していきたいと考えている。」と語ってくれた。

また、単一部品の製造だけを行うのではな

く、組み立てを伴うアッセンブリでの受注、設計段階から受注し、製品に対する提案を行うといった、より高度な生産体制の確立を目指すという。

## 生産改革活動

当社は、現在様々な改革に取り組んでいる。平成12年にISO9001の認証を取得したが、経営者が定めた経営理念、経営方針、行動指針等と整合性のとれた品質方針達成に向けて平成15年にISO9000:2000に移行した。また、環境問題に対する取り組みも始めており、ISO14001の認証に向け環境方針を策定し活動中である。

また、現在、TOC方式の活用による生産改革活動を展開しており、工場内の生産体制の見直しを図っている。

## 今後の事業展開について

新たな事業展開として、長年培ってきた板金・金属加工の技術を結集し、ステンレス板による看板・標札事業を立ち上げた。「一人で考えた訳ではない。スタッフと議論する中で生まれてきた。工場長の名刺ではセールスがやりにくい。」と、自らがトップセールスマンであるとして、看板担当の名刺もいただいた。

人材育成にも積極的であり、以前から経営革新等に関し管理者研修は実施していたが、「ゲージマン教育」と銘打ち、一般社員に対しても研修を行うという。これにより全社を挙げて市場の変化に対応できる体制を組みたいとしており、「社員の良いところを引き出したい。最後は人が大事である。人が豊かであれば、良いアイデアも出てくる。」と企業発展のカギを握るのは人材であると語ってくれた。